

東海中学校体育連盟剣道部申し合わせ事項

(全国大会申し合わせ事項に準ずる)

- 1 「(財)全日本剣道連盟試合ならびに審判規則、細則」及び「全国中体連剣道競技部申し合わせ事項」・「東海中体連剣道部申し合わせ事項」に従って試合を行う。
- 2 整列は審判員側に先鋒が並び、互いに9歩の間合いを保ち立礼する。先鋒・次鋒は面・小手をつけ、竹刀を持って整列する。
- 3 正面に対する礼は、最初と最後の試合のみで最初(第一試合)正面に礼をさせ次に互いの礼をさせる。なお、決勝戦については初めと終わりに正面に対し、礼をする。
- 4 審判合議のとき、競技者を立ったまま納刀させ、境界線近くまでさがり、蹲踞または正座して待つ。
- 5 団体戦では、先鋒戦および大将戦は監督・選手とも選手席に正座して観戦する。個人戦においての監督も同じとする。
- 6 選手変更については、監督が指定用紙に必要事項を記入し、各試合会場の審判主任に申し出る。(再出場はできない。)
- 7 選手の変更について
 - (1) 参加申し込み以降に、けが・病気などにより出場できない選手・補員が生じた場合には、その選手の登録を抹消し、新たに補員の補充をすることができる。この場合には診断書を大会本部に提出する。
 - (2) 選手の変更は補員からとする。
- 8 突き技は禁止とする。故意に突っかけるような突きは公正を害する行為として反則とすることがある。片手打ちは有効としない。
- 9 上段は原則としてとらせない。ただし、身体上の理由があるときのみ認める。
- 10 女子の蹲踞は男子と同じとする。(膝の故障などで片膝の場合、監督会議で確認する)
- 11 サポーターの使用について<届け出用紙を使用する>
 - (1) サポーター等(足袋、テーピングを含む)の使用については、医療上必要と認める場合に限り、使用を認める。使用するには届けたうえで許可を得る。(各試合場の審判主任に申し出る。)
 - (2) サポーターなどは、肘や膝などにつける物を足に使用したり、ゴムや革およびすべり止めを底に貼ったもの等を使用したりすることはできない。
 - (3) 指へのテーピングは届け出不要とする。
- 12 選手交替の際の、よけいな動作(胴つき・握手など)は禁止とする。
- 13 競技場内へのストップウォッチ、ビデオなどの電子機器の持ち込み、及び時間を計る行為は禁ずる。
- 14 選手・監督のサイン・声援は禁止する。応援は拍手のみとする。
- 15 不正な竹刀を使用した競技者は、発見された時点で相手に2本を与え、その試合の既得権は認められない。また、その選手は以後の試合を継続することができない。原則としてこの処遇は前の試合にさかのぼらない。リーグ戦においては未消化の試合を2本負けとする。決勝トーナメントにおいては、補員の補充を認める。

不正竹刀とは、①ビニールテープなどをまいた竹刀 ②異物を入れた竹刀 ③未検印の竹刀 をいう。
- 16 鏢については、革色(白も可。ただし、透明は不可)のものを使用する。それ以外のものを使用している場合、直ちに取り替えるものとする。
- 17 竹刀は長さが男女とも114cm(約3尺7寸)以内、重さは男子が440g以上、女子は400g以上とする。安全のため竹刀の先端部最小直径が、男子25mm以上、女子24mm以上とし、ちくとう最小直径を男子20mm以上、女子19mm以上とする。検査に合格し検印のあるものを使用する。また、柄革は、滑り止めや模様等がない無地のもので白色とする。
- 18 アイガード・ポリカーボネット面、カーボン竹刀の使用は認める。
- 19 面紐は結び目より40cm以内、小手紐は長くたれさがらないように結ぶ。
- 20 面について、乳革は紺か黒とし、通常の配色でない面の使用は禁止とする。
- 21 試合者の目印については、各校で用意する。
- 22 名札は黒または紺地に白字とし、学校名(〇〇中)・氏名を明記したものを使用する。また、同姓の選手がいるときは、名前の頭文字を書く。
- 23 試合をする学校および待機する学校の控え席(競技場内)は、選手、監督1名(教職員)のみとする。